

平成 21 年 10 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社キムラタン
代表者名 取締役社長 浅川岳彦
(コード番号 8107 大証第 1 部)
問合せ先 取 締 役 木村裕輔
(電話 078-306-0801)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 29 日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	2,170	△60	△80	△90	△0 円 17 銭
今回修正予想 (B)	1,944	△145	△177	△185	△0 円 30 銭
増減額 (B - A)	△226	△85	△97	△95	△0 円 13 銭
増減率 (%)	△10.4	—	—	—	—
(参考) 前期実績	2,391	△291	△349	△597	△1 円 17 銭

2. 平成 22 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,710	60	30	10	0 円 02 銭
今回修正予想 (B)	4,340	60	20	5	0 円 01 銭
増減額 (B - A)	△370	—	△10	△5	△0 円 01 銭
増減率 (%)	△7.9	—	△33.3	△50.0	—
(参考) 前期実績	4,972	△436	△555	△934	△1 円 77 銭

3. 修正の理由

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

当第 2 四半期累計期間の経営環境は、雇用情勢や所得の悪化などの影響により、個人消費の低迷が続く厳しい環境にありました。

このような中で、インショップ業態における売上高につきましては粗利改善重視の方針を徹底し概ね計画通りの推移となりましたが、年度初頭に予定していた新店の開設が秋にずれ込んだことと、直営店における客数減少により、ショップ業態合計の売上高は当初計画を下回る見通しとなりました。

卸業態につきましては、冬物商品の納品時期が一部 10 月以降にずれ込んだこともあり、売上高は計画未達となる見通しであります。

NET 販売の売上高は、前年同期実績は上回るものの、新規会員獲得が予定未達となり、当初計画を下回る見通しとなりました。

以上のとおり、当第 2 四半期累計期間の売上高は、計画を 10.4% 下回る 19 億 44 百万円となる見通しで

あります。

売上総利益につきましては、仕入原価の低減とショップ業態における粗利改善重視の方針の徹底、卸業態における残品率の低減により前年同期比で 3.3 ポイント改善しましたが、計画には 0.8 ポイントとどかず、9 億 30 百万円となる見通しとなりました。

販売費及び一般管理費につきましては、前事業年度から実施してまいりましたコスト削減策の効果に加えて、当第 2 四半期累計期間において、物流業務の一部外部委託を実施したこと等により、当初計画に対し 3.7%減の 10 億 75 百万円となる見通しであります。

したがって、当第 2 四半期累計期間の営業損失は 1 億 45 百万円（前年同期に対し 1 億 46 百万円改善）となり、経常損失は 1 億 77 百万円（前年同期に対し 1 億 72 百万円改善）、四半期純損失は 1 億 85 百万円（前年同期に対し 4 億 12 百万円改善）となる見通しであります。

（２）通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

業態別売上高予想

（単位：百万円）

	ショップ 業態	卸業態	NET 販売	その他	全社
前回発表予想（Ａ）	2,800	1,490	340	80	4,710
今回修正予想（Ｂ）	2,678	1,303	263	96	4,340
増減額（Ｂ－Ａ）	△122	△187	△77	16	△370
増減率（％）	△4.4	△12.6	△22.6	20.0	△7.9
（参考）前期実績	3,172	1,313	231	255	4,972

当第 2 四半期累計期間の状況を踏まえ、各業態の売上高計画を再度精査した結果、通期の売上高は 43 億 40 百万円となり、当初予想を 3 億 70 百万円下回る見通しであります。

昨今の市場環境を踏まえると、売上増による収益獲得ではなく、徹底したコスト削減により単年度黒字を達成することが、目下の最善の策であると判断し、次のとおりの大幅なコスト削減策を立案し、当期中に実施いたします。

（単位：百万円）

項 目	施 策	削減額
物流コスト	物流業務を全面的に外部委託	△40
仕入コスト	仕入原価の削減	△30
役員報酬	役員報酬を 6 カ月間全額カット	△27
本部人件費	本社従業員の賃金を 6 カ月間 10%カット	△15
店舗人件費	店舗の定員・シフトの変更	△12
出張交通費	下半期の交通費 70%カット	△10
店舗家賃	店舗家賃・資材費の削減	△ 7
販売促進費	販促計画の見直し	△ 4
その他諸経費	業務委託の休止、サイト運営費用削減等	△32
合 計		△180

以上の施策の実施により、通期の売上総利益は 21 億 20 百万円、販売費及び一般管理費は 20 億 60 百万円となり、営業利益は 60 百万円、経常利益は 20 百万円、当期純利益は 5 百万円となる見通しであります。

合わせて、本日公表の「経営機構の改革について」に記載の経営機構の改革による意思決定と実行のスピードアップの実現により単年度黒字必達に向け一層努力してまいります。

今後も厳しい市場環境は長期化することが予想されますが、そのような中で競争力と収益性を高めていくために、当社の強みを再認識し、ベビー（0 才から 3 才児）を中心とした製品開発、販売力の強化に一層の資源集中を実施し、「子育て支援」を理念とした方針を徹底してまいります。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により当該予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以上